

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町(小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102848-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵を受けてありのままに」の精神を意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さを適度に保ち、食事を適切に管理することにより、人間の生命力を引き出し、心身の活性化に繋げることを最尊重すること。そして利用者様のありのままを受け入れ、最後までその人らしく生き抜くことを援助し、安らかな死をご家族様に見守りながら迎えられるように、職員一同誠意を持ってケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は、古くからの地元の住民でもあり、地域に密着した運営を行なっている。家族は、運営推進会議に参加し、イベントの協力や外出援助などにも、積極的に関わっている。事業所は、キャリアパス制度を導入し、職員が誇りを持って、生き生きとその能力を発揮して働くことができるよう、環境を整備し、資格取得を支援して、働く意欲につなげている。また、管理者・職員は、「自然の恵を受けてありのままに」の基本理念を深く理解し、医療機関と連携を図りながら、看取りケアに取り組んでいる。生命の尊厳に向き合い、死生観を共有し、利用者が最期まで、安らかで穏やかな生活が送れるように、誠意を持って支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵を受けてありのままに」を理念に、自然が豊富にある地域の中で利用者のありのままの姿を受け止め、自分らしく暮らせるよう支援している。	利用者は、登下校の学童や地域住民と気軽に挨拶を交わしながら、毎日を過ごしている。管理者・職員は、理念を日々振り返り、恵まれた自然環境の中で、利用者が、その人らしく暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会員として地域の行事や防災訓練などに参加し協力関係を築いている。職員も地元の人が多く顔馴染みとなっている。また地域住民を事業所の夏祭りに招いたりして親しく付きあっている。	代表者が地域住民でもあり、地元の高齢者や老々介護などの相談窓口にもなっている。文化祭に、利用者の作品を出展したり、事業所の夏祭りに、近隣住民を招くなど、日常的に地域との交流がある。また、ボランティア訪問も多く、学生の職場体験の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報を守りながら、運営推進会議や自治会の会合に於いてホームの取り組みや生活についてお知らせし、地域の人たちに認知症の理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催している。ホームでの様子や行事をお知らせすると共に意見を交換している。会議での意見を職員全員で共有し利用者、家族の思いに添ったサービスを提供できるよう支援している。	運営推進会議では、災害訓練や夏祭りの計画を、事前に案内を送付し、意見を聞いている。また、利用者の予防接種の重要性や介護保険制度改正に伴う利用料変更について話し合い、運営やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等に於いて市の担当者に助言、指導をいただいている。また、直接行政に出向き、困難事例や法改正などを相談し協力関係を築いている。	運営推進会議や市主催の会議で、事業所の実情を伝えている。地域包括支援センターや市の担当者と、連携を密にして、制度改正や空き情報などで相談し、助言を得ながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い身体拘束による弊害を心得ている。玄関の鍵は職員の手薄な時間を除き解放して、利用者の安全に配慮し見守るようにしている。	転倒の恐れがある利用者であっても、安全に配慮しながら、本人の自由な行動を見守っている。夜間も、頻回な巡回と見守りで、身体拘束ゼロを実践している。家族にも、拘束の弊害、事故のリスクと対策についても、分かりやすく説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者指導のもと、虐待の防止と早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。日常生活自立支援法や成年後見制度を必要とされる方が安心して利用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、利用者や家族等が不安や疑問を感じてないかに配慮しながら、書面での十分な説明と理解、納得を得ていただけるよう努めている。また、施設内の雰囲気や生活の様子、職員の態度等を見て頂き信頼関係を築くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の方が気軽に話しかけることができる雰囲気を大切にして、家族が面会に来られた時にはホームでの暮らしの様子を詳細にお伝えしながら、意見や要望を引き出せるように努力し素早く対応ができるように努めている。	運営推進会議や家族の訪問時に、意見や要望を聴き、毎月の便りと併せて、本人の生活状況を伝えている。家族から、職員の移動理由や外部評価の意義などについて、率直な質問や意見があり、それらについて、速やかに対応し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はいつも出勤しており、職員の意見にすぐに対応してくれる柔軟な姿勢があり、月例の会議では意見や提案を話し合い、個別ケアの改善や職員の勤務調整など、改善に向けた話し合いをしている。	管理者は、職員会議やケアの場面で、その都度、職員の意見を聴いている。また、個別の相談にも応じている。備品の購入や勤務体制の変更、福利厚生や資格の取得について、意見や要望を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が向上心を持ち、互いに協力しあって明るい環境で働けるように努めている。キャリアパス制度の導入により職員のやる気を引き出せるようにしている。また、福利厚生にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員育成の重要性を認識し一人一人の能力に合わせた研修を受ける機会を積極的に作っている。研修に合わせて勤務調整を行っている。必要に応じて施設内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や各会議を通して知り合った他施設の方の見学や情報交換ができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生やサービスを利用に至るまでの経過を理解し、家族と本人の思いを受け止め寄り添いながら信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立って、家族等の話をしっかり聴き、思いを受け止め 気兼ねなく不安や要望も話して頂けるように働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の実情や要望をもとに、「今、何が必要か」見極め、他のサービス利用も視野に入れて柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安や悲しみ喜びを一緒に生活している家族として共感し、利用者が安心して生活を送れるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら本人との絆をより深めるように支援し、職員と家族が共に本人を支えていく関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や友人たちが疎遠になってしまうことなく、交流を続けていけるように気軽に事業所を訪問してもらえぬ雰囲気作りをしている。また、手紙や電話をかけ、関係の継続を支援している。	家族や親戚、孫などが訪問し、美容院や食事、墓参りなどに一緒に出かけている。利用者の教え子や知人、馴染みのボランティアの訪問も継続している。面会者には、部屋を開放し、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や行動を把握し、孤立やトラブルを防ぎ共に暮らしを楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も必要に応じて情報提供し相談や支援をし、変わらず良好な関係を続けていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、その人の思いや意向に感心をはらい把握に努めている。その人らしく、思いに添った暮らしが続けられるように支援をしている。	日々の暮らしの中で、本人の思いや意向を聴いている。意思表示が困難な人は、筆談やゼスチャー、表情などから思いを汲み取り、家族からも情報を得ている。それらを、全職員で共有し、その人らしい暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活史を作成することにより、これまでの暮らしを把握し、本人が穏やかに、また、有する力を発揮しながら自分らしく暮していけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムや心身状態等を把握し職員同士が情報を共有し支援している。また、その人にできる事、出来ない事を見極めて適切なケアを提供できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録をもとにサービス担当者会議で本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、本人 家族 必要な関係者と意見を出し合い検討して対応している。その人らしい暮らしが継続できるように介護計画を作成している。	サービス担当者会議で、ケアプラン原案に、本人・家族の意向を確認して、利用者の状況や問題点にアセスメントを加えている。さらに、介護記録を基に、利用者が、その人らしく安心な暮らしが継続できるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気付いたことを個別記録に記入し、ケアの実践や本人の様子の変化を職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況、その場、その時のニーズに合わせて臨機応変にサービスを提供できるように努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティアの方の力を借りながら、一人一人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう事業所全体で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を汲みかかりつけ医は個々に選択している。隔週に協力医の往診があり必要に応じて安心して適切な医療が受けられるようにしている。受診時には看護師が同伴し支援している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医を継続している。かかりつけ医や眼科受診は、家族の受診が原則であるが、状況に応じて、看護師が同伴し、適切な医療を受けている。かかりつけ医と歯科医は往診もあり、急変時の体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の暮らしの中で、状態変化や異常に気づき、速やかに看護師に伝えて相談することにより病状の早期発見につながり利用者が適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した時は必ず看護師が付添い病院関係者にこれまでの既往歴や本人に必要なケアの情報提供をしている。入院中も家族、医療関係者、事業所と連絡をとりながら早期退院にむけて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族と段階ごとに話し合い意向を確認しながら、事業所全体で方針を共有し最後までその人らしく穏やかに過ごせるよう家族、医療関係者と共に支援している。	重度化・終末期の方針は、文書で家族に説明をしている。重度化・終末期については、早い段階から家族と医師、関係者で話し合っている。協力医と看護師、職員が、24時間体制で連携し、家族の協力を得て、万全の態勢で終末期の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、その研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、自治会長さんに参加していただき、色々な場合を想定し避難訓練を行っている。消火器等の使用方法も指導を受けている。	災害訓練は、消防署の協力の下、火災や地震、水害、夜間も想定した訓練を実施している。訓練には、地域住民も参加し、初期消火、避難誘導、連絡手順などを確認している。最低限、必要な備蓄を確保している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や価値観を尊重し自尊心を傷付けない言葉掛けに配慮している。本人のテンポに合わせ、その人の話しに耳を傾け、ゆとりのある対応を心掛けている。	職員は、利用者の人格の尊重と、誇りを傷つけない言葉かけと対応についてを学び、実践をしている。常に礼儀をわきまえ、一人ひとりの生活習慣やこだわりにも配慮をし、せかさず、ゆとりの心で対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が決める力やその人らしい希望や願いを引き出せるよう努力している。また、どんな場面でも本人が主体性を持って生活が出来るよう働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを乱すことなく、日々その人らしい暮らしが出来るよう可能な限り柔軟な支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりと継続性を大切にしながら、その人の好みや意向、持っている力に応じた支援が出来るようにしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な野菜を食材とし、一人一人の好みや体調に合った献立を提供し、見た目も楽しめるように配慮している。利用者と職員と一緒に下ごしらえをしたり、一緒に味わいながら食事を楽しんでいる。	個々の好きな物を献立に取り入れ、調理をしている。利用者も、野菜の皮むきやテーブル拭きなど、出来ることを手伝っている。職員と共に、同じものを食べながら、出来栄を話題に、美味しさ楽しい時間を共有している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏り、水分不足が起こらないように普段から利用者の食べ物の好み習慣、食事の様子を把握し、体調や体重の増減を観察し個々に応じた食生活の支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持ができるよう本人の習慣や持っている力を活かしながら支援をしている。また、食後だけではなく定期的な歯科メンテナンスを行い指導を受けている。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄パターンを把握するとともに、持っている力に応じた排泄方法を考え、自立にむけて支援を行っている。	利用者それぞれに合わせた、排泄用品を使用している。身体の状態や頻度に応じて声かけをし、トイレへ誘導することで、排泄の失敗が減り、おむつの削減につながっている。夜間も、タイミングよく、トイレへ促し、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や量を確認し排便チェックしている。食物繊維の多い食品、乳製品、水分補給など摂取し適度な運動も取り入れるなどして一人ひとりに応じた自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、週3回の入浴日は決まっているが本人の希望、健康状態を考慮しながら柔軟に対応している。また、安心安楽に入浴していたできるように援助している。	週3回を基本としているが、毎日でも入れる体制であり、入浴拒否の場合は、順番や日を改めるなどして、柔軟に対応している。浴槽には、入浴剤や季節のゆず、菖蒲などを入れ、ゆったりと、気持ちよい入浴を支援している。重度の人には、複数介助によるシャワー浴で対応している。	経度者対象の浴槽のため、複数介助が必要な重度の利用者が、安全・安心な入浴ができ、また、職員の身体的負担軽減にもなる、福祉用具の設置に期待をしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせ休息したり安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量について理解し、薬の飲み忘れや誤薬を防ぐために職員は日付や名前を声に出し服薬確認を行っている。また、本人の状態変化等にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割を持ち、意欲的に生活ができるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の神社や地蔵さんまで散歩に出かけた、散歩が無理な人にはテラスで日光浴など、できる限り外に出て季節感を味わえるよう支援している。また、外出可能な方は家族の協力を得て月2回程買い物などに出掛けられています。	車椅子の利用者も、日々、周辺を散歩し、近くの公園で、花見や茶会などを楽しんだりしている。病院の帰りには、買い物や喫茶店に立ち寄っている。家族の協力を得て、墓参りや買い物、外食などへも出かけている。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者様には家族の了解のもと自分で管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人のプライバシーに配慮しながら自由に電話をしたり季節のお便りもだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感を刺激し利用者一人一人の感覚や価値観を大切にしながら、毎日が楽しみをもつて居心地良く暮らせるように工夫している。	ゆったりとしたソファのある共用の部屋は、清潔で明るく、自然喚起にも配慮しながら、空調管理も適切に管理している。窓越しに、季節の景色が広がり、外から聴こえる子どもの声や、台所からの匂いに生活感がある。もみじを使用した共同作品や、様々な写真を掲示して、家庭的で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や生活のリズムを理解してストレスを感じないように配慮し、一人一人お気に入りの場所があったら気の合うもの同士や一人になれる空間の確保などに心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が一番安心して過ごせる場所にするため、写真やお花を飾ったりしている。家族と相談して自由に持ってきていただいている。	居室には、ベッド、整理ダンスを設置している。その他、家具やテレビなど、馴染みの物を持ち込み、好みに配置している。夫の位牌や写真、花を飾り、日記帳や日用品を手元に置いて、その人らしく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の身体機能の状態に合わせて出来るだけ自立して行えるように援助している。室内はバリアフリーになっているので車椅子の移動も自由にできるよう確保している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町 (式部)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成27年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然豊かな立地に恵まれ散歩に出かけたり庭で花を視たり自然を感じ扉や窓をオオープンにし、中からも行きかう人々たちを見、外からも中の様子が見え、お互いおいさつを交わし地域とより良い関係を築くよう職員は心がけ支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際、挨拶、会話をかわし、夏祭り、バーベキューなど行事には、ご近所の方々を招待し一緒に楽しみ交流を深めている。地域の文化祭などに作品を作り出展し参加出来るよう支援している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、プライベートに配慮しながら、見学や相談に来られる方に、アドバイスができるようにしている。また、色々な行事の際も地域の方々に参加して頂き、日頃の生活を知ってもらいご理解いただけるよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度、利用者家族、自治会の方、市の職員の方出席され行われています。そこで出た意見は、それぞれの部所に持ち帰りそこで、話し合い職員全員で共有しサービスに反映させ向上につとめる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは、密に連絡を取り合いご指導いただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、なにが身体拘束に成るのか、その方の尊厳人格を傷つけてはいないかよく話し合い、見守りのなかで身体拘束をしない支援を行っている、昼間、玄関などの施錠は、おこなっていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見守りを重視し職員、利用者同士の、言葉使いなどにも気をつけている。また、入浴時など身体に、異常がないか、日頃表情に変わりがないか連絡し合い防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	以前、青年後見人制度を利用されていた方がみえ現在も、この制度を利用されている方が新たに入所されたため、職員は、学ぶ機会がある。今後、他者にこれらを活用する機会があれば支援して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前、契約書を取り交わしている。その際、利用者、家族に事業所の考え方を説明し納得が得られるよう話し合いご理解いただき支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、「ご意見箱」を設置している。家族の面会時、職員の方から、近況報告など声を掛けて、話しやすい環境を作り、要望、質問などお尋ねしている。家族の意見等は、各担当に連絡し素早く対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際、職員全員と、管理者の出席が有り、その場で話し合い、意見、要望を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の要望など取り入れ整備を整えて働きやすい環境を作っている。また、適材適所を考え職員の配置を行っている。福利厚生などにも、力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、1ヶ月間、他の職員を付け仕事などの把握に努める。職員の力に応じた研修への出席や、資格取得などの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学などの受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの場を多く作り、以前の話など踏まえ、不安や要望を聞きだし職員で共有して安定したケアを行い支援する。要望を計画に取り入れる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から以前の話や、介護での御苦勞を尋ね、不安、要望を計画に反映させ、納得いただけるよう説明し支援して行く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見守りの中から、見極め色々な方法を試み職員で話し合いその人に合った支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りの中から、その方の出来る事、出来ない事を見極め、出来る事は、声掛け合い、継続出来る要支援する。また、出来ない方は、身の回りのことから、一つ一つ声掛け少しでも動ける支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、職員から近況報告をし、その際、困っている事、要望などお尋ねして素早く対応している。また、こちら方からの要望も聞き入れて頂き速やかに対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をいただき馴染みのお店、美容院などに行かれています。ご近所の方や、教え子さんなどが尋ねてみえます、そういった場合ご本人の了解をえて、面会して頂けるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中から、利用者同士の関係を把握し出来る事を続け、互いに助け合い生活出来るよう見守りながら、助言し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、ご家族にお会いした場合、その後の様子などお尋ねし、相談などがあれば応じている。退所後でも、ご家族とは、良い関係で有りたいと心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の出来る事、継続出来る事を職員が把握し、危険が及ばない限り見守り行っている。困難なことは、職員全員でより良い方法を検討する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表など、個人カルテにファイルされており、職員全員で情報共有できるように成っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり、その日その時、心身状態が違って来るので、職員同士の申し送りや、カルテフォカスから把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを行い、その際、気づき、要望など職員で話し合い、計画の作成、変更を行なって、共有し、統一したより良い方法で支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテが有り、職員は、自由に見る事が出来職員間で共有できる。より、新しい情報を知る事が出来る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望を取り入れるよう、職員は、どうしたらよいか話し合い、要望に沿えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前の道が、通学路と成っていて、通学される学生さん達の明るい様子をみたり、挨拶を交わす事もある。地域の文化祭に作品を出展するため、お互い出来る事を分担し行う事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より受診しているかかりつけ医に受診されている方も有ります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、看護職員と密に連絡を取り合い、速やかな対応を心がけ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要に成った場合、看護職員が、病院、家族と連絡を取り合い速やかに対処する。入院中も、病院関係者と連絡を取り合い、早期退院に向け取り組み支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、終末期の在り方について、早い段階より本人、家族と話し合いを行い、それに沿って、事業所、職員で情報を共有し関係者と共にチームで支援して行く。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の連絡体制や、対処方法についてマニュアルも有り、日頃、救急手当初期対応について定期的に訓練し実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	色々な想定をし、年2回避難訓練を行っている。また、近年水害なども有り、そういった場合そのつど避難方法に付いて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新しく入った社員には、初めに言葉使い、言葉掛けに注意する様指導している。また、日々の生活の中でも、尊厳やプライバシーを損なわない会話、態度で接する様に職員一人ひとりが心掛け支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は、なかなか自分の意思を表現されず、流れに流されている感じで日々を過ごしておられる方が多い、出来る方には、危険が無い限りは、出来る事を継続して頂き、出来ない方には、そのつど、声掛けし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンの把握は、できていて、その都度、声掛けを行い、何事も無理には、行わない。食事や入浴なども、その方に合った方法で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にて行える方は、見守り助言し行っていたり、介助が必要な方は、毎朝鏡の前で声を掛けながらケアを行っている。道具なども、揃えられている。髪の毛爪なども、気をつけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューを貼りだし、食事を楽しみにして貰う。季節の物、行事など、工夫している。誕生日なども、食べたい物をお尋ねする。その方に合った食事形態を工夫し支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれたメニューの工夫、その方に合った食事形態の工夫をして支援している。また、季節や体調を考慮し水分補給など行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは、声掛けし徹底し行っている。毎月2回、衛生士によるケアを行っている方も有る。それ以外でも相談、指導も受けている。その方に合った方法道具を使用し支援している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとり排泄に付いて、表に記入されていて、その人に合った排せつパターンを把握している。自己にてうまく出来ない方には、職員が介助に付き声掛けし支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘に付いて理解しており、食事の工夫や、身体を動かす声掛け、また、おやつ時の工夫など支援している。現在、下剤使用される方は、有りません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節のお風呂や、入浴剤を使用し、香りや色の変化など楽しみ入浴できるよう支援している。けして、無理にする事は、ありません。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、声掛けし身体を休ませるようにしています。また、ご家族の支援もいただき、寝具も季節毎気を付け、清潔を保つよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの力を把握し、その人に合った服薬方法を職員全員で統一し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとり理解し出来る事を自ら行ってもらい、散歩や、食事など無理には、何事も行わない。ボランティアやエレクトンの日などご支援いただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族のご協力をいただき買い物や、外泊される方がいます。その際の服薬や準備などの支援を行っている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、その方力に応じ所持使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話の使用、手紙の投函など自由にできるよう支援している。携帯電話を使用されている方もある。また、利用者全員年賀状、暑中見舞いなど家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	理念にもあるように、共用空間を皆さんが、気持ち良く使用できるよう整理、整頓に心がけ空調、換気などにも気を配り心地良く過ごせるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの居場所や会話する相手、1人で新聞を読み静かにされている方など、職員は、だいたい把握しており見守り支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が好きな物を持ち込み、好きなように物が配置されている。清潔に保たれるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、皆さんが安全に移動したり生活を送れるよう整備、整頓されている。		